

# H30年度診療放射線技師養成大学の訪問(通算第3回目)

【日時】 平成30年6月25日(月)

【場所】 群馬県立県民健康科学大学

【内容】 ①学生への学会からのプレゼンテーション

1 JSRTおよび関東支部の紹介 梁川支部長

2 医療現場と学術活動 武井副支部長

②学生及び教員との交流

【大学の参加者】 学生:約35名、教職員:約7名

【学会の参加者】:梁川, 武井, 柳田, 仲田, 加藤, 諏訪 合計6名

## 【概要】

昨年度より始めた「大学訪問」の通算第3回目として、群馬県立県民健康科学大学を訪問した(1回目は昨年9月につくば国際大学, 2回目は1月に茨城県立医療大学を訪問した)。

武井副支部長と総務委員長が中心となり大学側と調整をし、梁川支部長、武井副支部長、柳田副支部長、仲田総務委員長、加藤編集委員長、諏訪広報・渉外副委員長の6名が参加した。当日は4年生が国家試験の模擬テストが終わった日に当り、4年生全員が今回の「大学訪問事業」に参加してくれた。また小倉代表理事をはじめ大学側の教員も多数参加してくれた。教室において梁川支部長及び武井副支部長が学会活動や臨床現場における診療放射線技師の活躍等についてプレゼンテーションを行った。質疑応答では、「これから仕事や研究などで、くじけそうになった時どうすればいいか」といった設問に対して、参加した理事から「専門性を大切にしながら勉強すること」「ひとりで越えられないハードルも、仲間の総力で何とかする」「年齢・専門性を超えた人とのつながりを大切に」など自身の経験や考えから率直な回答がなされていた。加えて、柳田副支部長が12月に大宮で開催する関東・東京支部合同研究発表大会2018への演題登録及び学生参加について紹介した。

その後別室で、学生8名と教員の先生方を交えて、現在4年生がどんな勉強に取り組んでいるのか、就職希望、またどんなテーマで研究を進めているのかなど意見交換をした。現在大学では学生が学会発表を経験して欲しいとする方針で研究活動を支援しているとのことで、学生の中には既に学会発表の経験を持つ方が多いようだった。中には国際学会の発表を経験している学生もいて、教員と学生がクルマの両輪のようにも呼応しながら研究成果を上げているという印象をもった。最後に、今後の就職や研究の情報のやり取りができるように、一部の学生からは連絡先の交換希望等がなされ、今回の訪問事業を終えた。

まとめ

- ・今後関東支部は教育機関と顔の見える協力関係の構築をしていくこととした。
- ・関東・東京支部合同研究発表大会2018への演題登録及び学生参加について紹介した。



全4年生が参加した支部長の講演



緑の多いキャンパスのエントランス